

会社名	株式会社旅籠屋	上場取引所等	GR
コード番号	4807	本社所在都道府県	東京都
代表者	代表取締役社長 甲斐 真		
問い合わせ先	責任者役職名 代表取締役社長 甲斐 真	TEL (03) 3847-8858	
決算取締役会開催日	平成 18 年 8 月 14 日		

1. 平成 18 年 6 月期の業績（平成 17 年 7 月 1 日～平成 18 年 6 月 30 日）

（注） 1. 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(1) 経営成績

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18 年 6 月期	314	(19.2)	7	(△50.3)	4	(△51.5)
17 年 6 月期	263	(28.7)	15	(251.5)	9	(1062.2)

	当期純利益	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 経常利益率
	百万円 %	円 銭	円 銭	%	%	%
18 年 6 月期	1 (△77.0)	282 96	248 10	0.8	1.1	1.5
17 年 6 月期	7 (—)	1,262 89	1,146 41	4.7	2.3	3.7

（注） 1. 期中平均株式数 18 年 6 月期 5,765 株 17 年 6 月期 5,620 株

2. 会計処理の方法の変更 無

3. 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益におけるパーセント表示は、対前期増減率

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
18 年 6 月期	408	255	62.6	40,945 62
17 年 6 月期	421	154	36.6	27,465 81

（注） 1. 期末発行済株式数 18 年 6 月期 6,245 株 17 年 6 月期 5,620 株

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18 年 6 月期	21	28	△14	53
17 年 6 月期	33	△13	△11	17

2. 平成 19 年 6 月期の業績予想（平成 18 年 7 月 1 日～平成 19 年 6 月 30 日）

通 期	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
	375	15	10

（参考）1株当たり予想当期純利益（通期） 1,601 円 28 銭

上記に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

3. 配当状況

	1株当たり配当金（千円）						配当金総額（千円）	配当性向（%）	純資産配当率（%）
	第1四半期	中間期末	第3四半期	期末	その他	年間			
17 年 6 月期	—	—	—	0	—	0	—	—	
18 年 6 月期	—	—	—	0	—	0	—	—	
19 年 6 月期（予想）	—	—	—	0	—	0	—	—	

4. コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方およびその施策の実施状況

（コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方）

当社は、公正かつ効率的な経営に取り組むにあたり、コーポレート・ガバナンスが重要な課題であると認識しております。そのため、経営の意思決定の内容及び過程を明確にし、利害関係者の意思や利益を適切に反映し株主から信頼される経営を目指しております。

（コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況）

当社の取締役は、平成 18 年 6 月末現在 3 名で構成し、会社法で定められた取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、業務遂行の状況を逐次監督しております。また、情報開示体制については、監査法人の指導を、随時受けながら、経営情報の迅速な開示を目的として、株主及び投資家に対して決算データ等の情報開示に努めております。

第 12 期 決算速報

(平成 17 年 7 月 1 日から平成 18 年 6 月 30 日まで)



平成 18 年 8 月 14 日

株式会社 旅籠屋

会社名 (定款上の商号)	株式会社 旅籠屋
英文名 (英文商号)	Hatagoya & Company
コード番号	4807
代表者の役職氏名	代表取締役社長 甲斐 真
本店の所在の場所	東京都台東区寿 3 丁目 3 番 4 号
電話番号	03-3847-8858
連絡者	代表取締役社長 甲斐 真

I 当期の業績

(1) 損益計算書 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	前年度 第4四半期 H17.4.1~ H17.6.30	当年度 第1四半期 H17.7.1~ H17.9.30	当年度 第2四半期 H17.10.1~ H17.12.31	当年度 第3四半期 H18.1.1~ H18.3.31	当年度 第4四半期 H18.1.1~ H18.3.31	当年度 累計 H17.7.1~ H18.6.30	前年同期比	前年度 累計 H16.7.1~ H17.6.30
I 営業収益	売上高	66,668	97,650	61,412	65,802	89,666	314,531	+19.2%	263,767
II 営業費用	売上原価	52,103	59,082	57,654	62,548	75,496	254,781	+25.2%	203,480
	販売費及び一般管理費	12,763	12,051	12,940	13,514	13,330	51,831	+16.8%	44,372
	営業利益または営業損失(▲)	1,801	26,516	▲9,181	▲10,260	839	7,918	▲50.2%	15,915
III 営業外収益		84	111	32	33	41	217	▲44.6%	392
IV 営業外費用		1,434	904	934	714	817	3,371	▲48.0%	6,487
	経常利益または経常損失(▲)	451	25,722	▲10,084	▲10,941	62	4,764	▲51.5%	9,820
V 特別利益		—	—	—	—	—	—	—	—
VI 特別損失		—	210	—	—	—	210	—	—
	税引前四半期(当期)純利益または純損失(▲)	451	25,512	▲10,084	▲10,941	62	4,554	▲53.6%	9,820
	法人税、住民税	1,926	680	680	680	876	2,923	+7.4%	2,722
	四半期(当期)純利益または純損失(▲)	▲1,474	24,832	▲10,764	▲11,622	▲813	1,631	▲77.0%	7,097
	前四半期(前期)繰越損失(▲)	▲144,367	▲145,842	▲121,009	▲131,774	—	—	(—)	▲152,939
	四半期(当期)未処理損失(▲)	▲145,842	▲121,009	▲131,774	▲143,397	—	—	(—)	▲145,842
	期中平均株式数	5,620 株	5,620 株	5,620 株	5,620 株	6,203 株	5,765 株	+2.6%	5,620 株
	1株当たり四半期(当期)純利益または純損失(▲)	▲262 円	4,418 円	▲1,915 円	▲2,068 円	▲131 円	282 円	▲980 円	1,262 円
	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益(注1)	—	3,917 円	—	—	—	248 円	▲898 円	1,146 円

(注1) 前年度第4四半期および当年度第2・第3・第4四半期については、最終損益が損失となるため記載を省略しております。

(2) 部門別内訳 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

本社	売上高	10,805	5,247	1,698	350	8,157	15,454	+9.5%	14,117
	経常損益	▲2,539	▲7,396	▲11,880	▲13,593	▲5,697	▲38,562	▲16.6%	▲33,069
日光鬼怒川店	売上高	8,281	14,366	8,340	8,176	6,996	37,880	▲3.7%	39,350
	経常損益	795	5,773	1,067	1,073	90	8,005	▲2.8%	8,236
	客室稼働率	50.1%	61.8%	53.5%	56.9%	44.2%	54.1%	+0.7 p	53.5%
那須店	売上高	6,436	11,112	6,535	5,490	6,217	29,355	0.7%	29,575
	経常損益	577	5,258	1,094	573	895	7,821	+16.3%	6,722
	客室稼働率	60.6%	78.4%	66.2%	46.9%	57.3%	62.3%	▲1.9 p	64.2%
秋田六郷店	売上高	4,327	5,909	2,978	2,166	4,608	15,662	▲7.7%	16,989
	経常損益	▲440	1,325	▲1,333	▲2,033	▲320	▲2,361	▲155.8%	▲923
	客室稼働率	51.3%	56.6%	41.7%	30.0%	58.5%	46.8%	▲5.0 p	51.8%
山中湖店	売上高	8,059	14,290	8,374	7,954	8,396	39,015	+1.7%	38,359
	経常損益	1,569	6,607	1,605	1,546	1,985	11,746	▲6.2%	12,530
	客室稼働率	66.3%	87.2%	72.4%	64.3%	76.8%	75.2%	+5.7 p	69.5%
沼田店	売上高	5,938	8,500	6,947	7,684	6,243	29,376	+1.1%	29,057
	経常損益	▲61	2,752	599	1,260	850	5,463	▲1.1%	5,524
	客室稼働率	72.3%	82.5%	80.4%	91.9%	81.3%	84.0%	+4.2 p	79.8%
水戸大洗店	売上高	6,030	9,820	5,554	5,891	6,557	27,823	▲3.4%	28,804
	経常損益	509	3,979	235	378	1,358	5,951	▲10.6%	6,657
	客室稼働率	71.2%	80.1%	64.1%	67.4%	76.5%	72.0%	▲4.2 p	76.2%
北上店	売上高	5,022	7,911	4,704	4,248	5,746	22,610	+19.1%	18,991
	経常損益	▲420	2,505	▲717	▲637	362	1,512	(—)	▲1,099
	客室稼働率	62.7%	80.3%	61.4%	54.0%	74.4%	67.6%	+12.9 p	54.7%
仙台亘理店	売上高	5,441	7,414	5,298	4,167	5,651	22,531	+3.1%	21,844
	経常損益	▲352	1,959	▲156	▲1,098	165	870	+107.6%	419
	客室稼働率	65.2%	63.8%	65.9%	50.6%	68.9%	62.4%	▲5.7 p	68.1%
小淵沢店	売上高	6,325	9,622	6,476	6,158	6,222	28,479	+6.8%	26,675
	経常損益	814	3,716	667	598	726	5,709	+18.4%	4,821
	客室稼働率	82.5%	85.9%	77.4%	78.7%	76.4%	79.6%	+1.5 p	78.1%
前橋南店	売上高(運営受託料)	—	3,454	2,990	3,009	2,550	12,004	—	—
	経常損益	—	▲563	▲422	▲310	▲381	▲1,677	—	—
	客室稼働率	—	51.5%	61.8%	69.2%	58.8%	60.3%	—	—
九十九里店	売上高	—	—	1,513	5,356	5,243	12,112	—	—
	経常損益	—	▲20	▲804	68	356	▲399	—	—
	客室稼働率	—	—	45.4%	76.6%	67.4%	68.1%	—	—
東京新木場店	売上高	—	—	—	5,148	17,076	22,224	—	—
	経常損益	—	▲175	▲40	1,233	▲331	686	—	—
	客室稼働率	—	—	—	97.2%	75.2%	78.6%	—	—
全社合計	売上高	66,668	97,650	61,412	65,802	89,666	314,531	+19.2%	263,767
	経常損益	451	25,722	▲10,084	▲10,941	62	4,764	▲51.5%	9,820
	客室稼働率	63.8%	72.4%	63.5%	63.2%	67.5%	66.6%	+1.1 p	65.5%

(3) 貸借対照表 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目		期別	前年度	当年度	当年度	当年度	当年度
			第4四半期末 H17.6.30	第1四半期末 H17.9.30	第2四半期末 H17.12.31	第3四半期末 H18.3.31	第4四半期末 H18.6.30
(資産の部)	I 流動資産	現金預金	17,371	36,057	61,023	28,105	53,120
		その他	8,210	39,051	27,343	33,176	14,221
		流動資産合計	25,581	75,108	88,366	61,282	67,341
	II 固定資産	有形固定資産	369,490	271,447	270,636	271,912	271,512
		無形固定資産	1,239	1,410	2,837	2,806	2,576
		投資その他の資産	25,216	35,022	34,922	34,852	67,252
		固定資産合計	395,945	307,880	308,396	309,572	341,341
資産合計		421,527	382,989	396,763	370,854	408,683	
(負債の部)	I 流動負債	59,728	49,877	68,604	66,453	55,343	
	II 固定負債	207,442	153,922	159,733	147,598	97,635	
	負債合計	267,170	203,799	228,337	214,051	152,978	
(資本の部)	I 資本金	281,000	281,000	281,000	281,000	—	
	II 資本剰余金 資本準備金	19,200	19,200	19,200	19,200	—	
	III 利益剰余金						
	四半期(当期)未処理損失(▲)	▲145,842	▲121,009	▲131,774	▲143,397	—	
	資本合計	154,357	179,190	168,425	156,802	—	
負債資本合計		421,527	382,989	396,763	370,854	—	
(純資産の部)	I 資本金					331,000	
	II 資本剰余金 資本準備金					68,916	
	III 利益剰余金 繰越利益剰余金					▲144,210	
	純資産合計					255,705	
負債・純資産合計						408,683	
発行済株式総数		5,620 株	5,620 株	5,620 株	5,620 株	6,245 株	
1株当たり純資産		27,466 円	31,884 円	29,969 円	27,900 円	40,945 円	

(4) 株主資本等変動計算書 (平成17年7月1日～平成18年6月30日、単位：千円、千円未満は切り捨てて表示)

項目	株主資本			
	資本金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金 繰越利益剰余金	株主資本合計
平成17年6月30日残高	281,000	19,200	▲145,842	154,357
事業年度中の変動額				
新株の発行	+50,000	+49,716		+99,716
当期純利益			+1,631	+1,631
事業年度中の変動額の合計	+50,000	+49,716	+1,631	+101,347
平成18年6月30日残高	331,000	68,916	▲144,210	255,705

(5) 貸借対照表および損益計算書の作成の基本となる事項

四半期の貸借対照表および損益計算書の作成の基礎としている会計処理の原則および手続は、下記事項を除き、正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「会社内容説明書 第5経理の状況 重要な会計方針」をご参照ください。事業年度の貸借対照表および損益計算書の作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。

- 固定資産の減価償却の方法 各四半期の減価償却費は年間償却見積額の4分の1相当額を計上しています。
- 経過勘定項目 未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間費用として処理しています。
- 税金の計上基準 法人税、住民税および事業税の年間見積り額の4分の1相当額を計上しています。
- 消費税等の会計処理 仮払消費税等および仮受消費税等は、相殺のうえ、差額を流動資産または流動負債として計上しています。

(6) 重要な会計方針

1. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産
 - (2) 無形固定資産
 - (3) 長期前払費用
2. リース取引の処理方法
3. 消費税等の会計処理

定額法を採用しています。なお、主な耐用年数は以下のとおりです。
 建物：17～18年、構築物：15～20年、車両運搬具：4～6年、工具器具備品：3～8年
 定額法を採用しています。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しています。均等償却によっています。
 定額法を採用しています。
 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。
 消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

(7) 会計方針の変更

該当事項はありません。

Ⅱ 第12期（平成17年7月1日～平成18年6月30日）の業績の概況

(0) 本社

前期に比べ、新規出店契約の増加により売上は増加（+9.5%）しましたが、株式譲渡制限撤廃や増資にともなう諸費用（約3,000千円）の発生などにより経常損失が拡大（▲33,069→▲38,562千円）しました。

(1) 日光鬼怒川店

前期に比べ、稼働率は微増しましたが、客室単価の減少により売上高（▲3.7%）経常利益（▲2.8%）ともに下回りました。

(2) 那須店

前期に比べ、稼働率は微減しましたが、客室単価の上昇により売上高（+0.7%）経常利益（+16.3%）ともに上回りました。

(3) 秋田六郷店

前期に比べ、稼働率（51.8→46.8%）売上高（▲7.7%）経常利益（▲923→▲2,361千円）ともに大幅に減少しました。

(4) 山中湖店

「所有店」から「借上店」になったため、稼働率・売上高は増加したものの、経常利益は減少（▲6.2%）しました。

(5) 沼田店

稼働率はきわめて好調（84.0%）でしたが、客室単価が下がったため、売上高、経常利益ともに横ばいとなりました。

(6) 水戸大洗店

前期に比べ、稼働率（76.2→72.0%）売上高（▲3.4%）経常利益（6,657→5,951千円）ともに減少しました。

(7) 北上店

稼働率（54.7→67.6%）売上高（+19.1%）ともに大幅に改善し、経常損益（▲1,099→1,512千円）が黒字転換しました。

(8) 仙台亘理店

稼働率（68.1→62.4%）は減少しましたが、客室単価の上昇などにより、売上高と経常利益は前期を上回りました。

(9) 小淵沢店

前期に比べ、稼働率（78.1→79.6%）売上高（+6.8%）経常利益（4,821→5,709千円）ともに順調に増加しました。

(10) 前橋南店

通期の稼働率は60%を超えましたが、客室単価が低く、経常赤字（▲1,677千円）となりました。

(11) 九十九里店

オープンから7ヶ月、稼働率を伸ばしてきましたが、経常利益は▲399千円と、黒字には届きませんでした。

(12) 東京新木場店

オープンから3ヵ月半が過ぎましたが、客室単価が予想を下回り、経常利益は686千円と、わずかな黒字にとどまりました。

(13) 全社

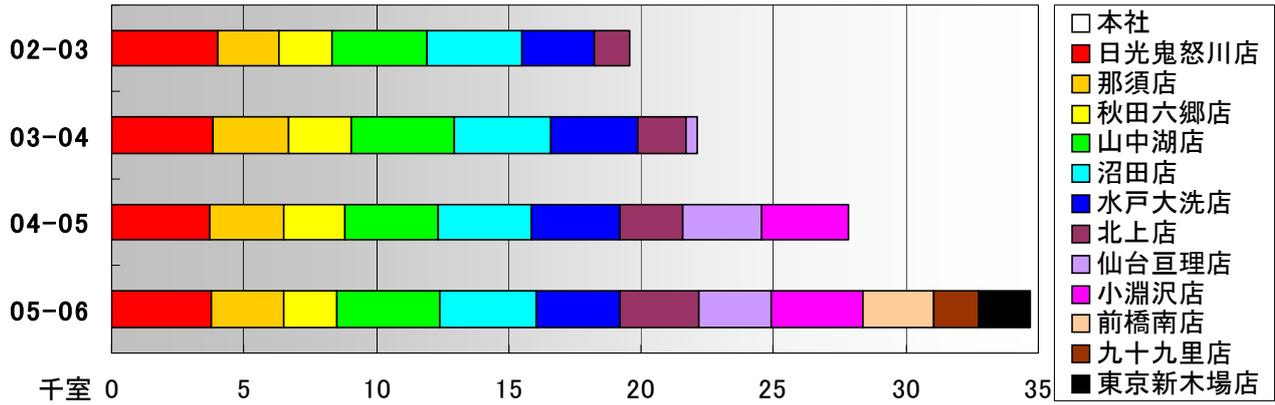
既存の9店舗は、稼働率（65.5→66.5%）売上高（+1.2%）経常利益（+4.3%）ともに微増となり、総じて堅調でした。

店舗別に見ると、「秋田六郷店」の業績悪化と「北上店」の大幅な業績伸長による黒字転換が目立ちます。「日光鬼怒川店」には下げ止まりの兆候があり、一時期大きく業績を下げた「水戸大洗店」「仙台亘理店」は回復傾向にあります。

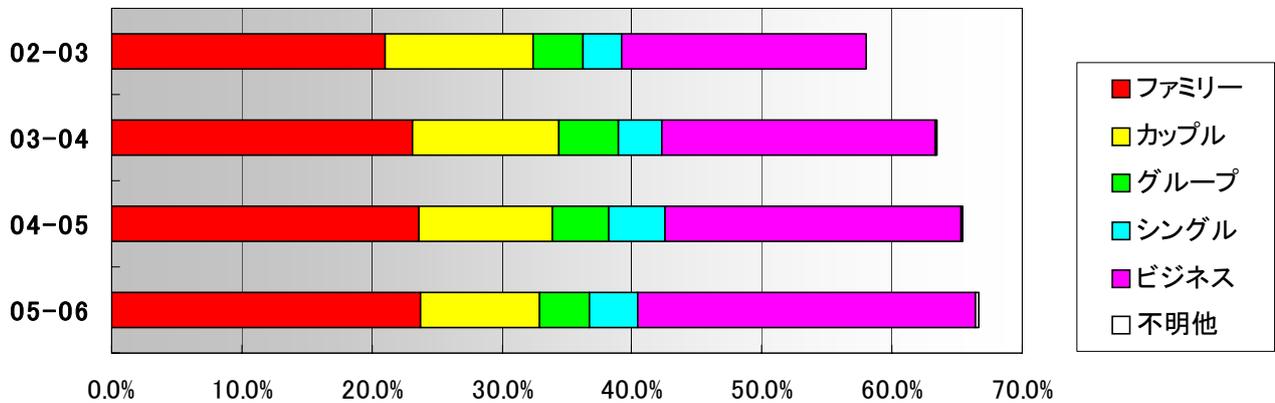
新規オープン店舗については、「前橋南店」（7月）と「九十九里店」（12月）が当初低迷したものの軌道に乗りつつあり、「東京新木場店」（3月）も順調に立ち上がったため、店舗全体の合計では稼働率（65.5→66.6%）経常利益（+1.0%）とも新規出店にともなう費用増を吸収して、前期に比べ微増となりました。ただし、当初の予想通り、新規店舗が利益の拡大に貢献するのは来期以降となります。

本社における臨時的な費用増、通信システムの改善費用、所有店舗の地震保険加入などもあり、全社の利益は前期を下回る結果となりましたが、必達目標であった通期での黒字継続は達成できました。

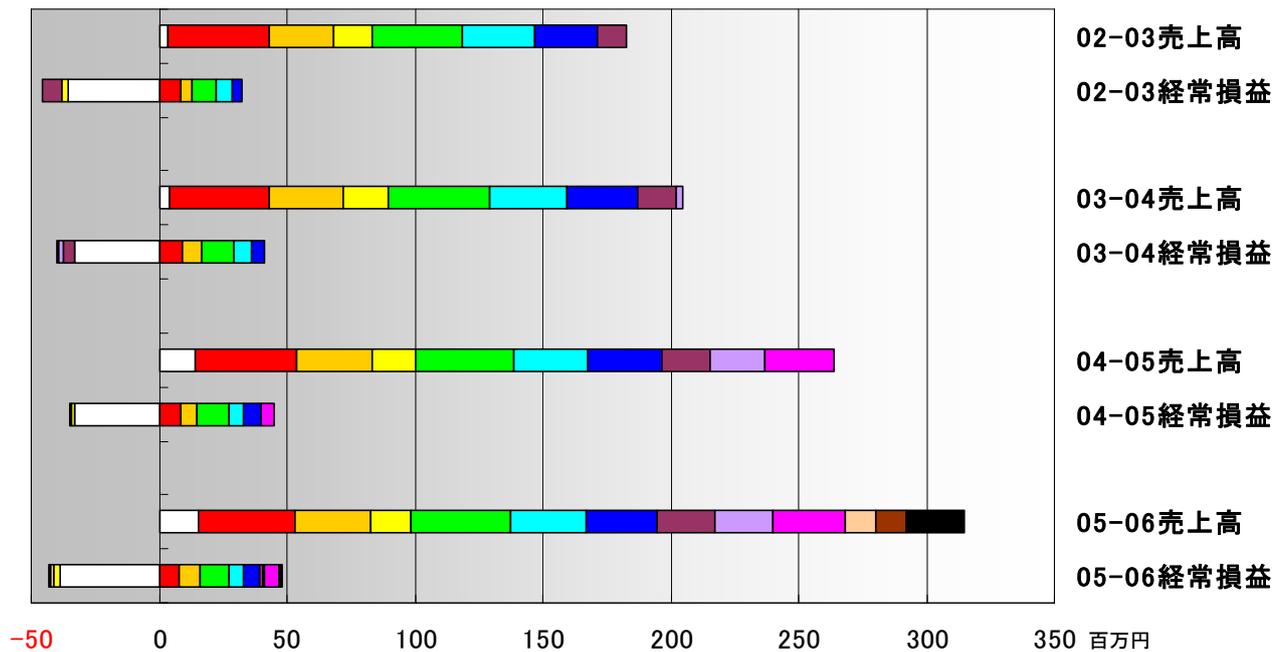
●利用客室数（全店合計、店舗別内訳）の推移（2005.7/1～2006.6/30）



●客室稼働率（全店通算、構成内訳）の推移（2005.7/1～2006.6/30）



●売上高・経常損益（全社合計、部門別内訳）の推移（2005.7/1～2006.6/30）



Ⅲ 第13期の売上高および利益の予測について

(単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別 第12期 通期実績 H17.7.1～ H18.6.30	第13期				
		第1四半期 予想 H18.7.1～9.30	第2四半期 予想 H18.10.1～12.31	第3四半期 予想 H19.1.1～3.31	第4四半期 予想 H19.4.1～6.30	通期予想 H18.7.1～ H19.6.30
売上高	314,531	124,000	83,000	80,000	88,000	375,000
経常損益	4,764	36,500	▲7,500	▲7,000	▲6,500	15,500
当期純損益	1,631	35,300	▲8,700	▲8,200	▲8,400	10,000

売上高については、前期の期中にオープンした「九十九里店」「東京新木場店」の大幅増に加え、来春には2店舗のオープンを見込んでおり、20%前後の増加を予想しています。

利益については、「九十九里店」「東京新木場店」の寄与が期待されますが、店舗の増加にともなう本社業務量の増大もあり、今秋より本社スタッフの1名増員を予定しているため、最終損益は10,000千円を予想しています。店舗数や売上高の増加がそのまま利益の拡大に反映されないのは誠に残念ですが、安定した社内態勢の強化が今後の成長に必須との判断であり、来々期の飛躍を期しているところです。

なお、来夏前までに前記の2店舗を含め、4～5店舗の新規オープンを目指しており、その時期によって、売上高や利益額に変動が予想されます。

Ⅳ 資金および借入金の状況

(1) 現金および預金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	第12期 第1四半期 H17.7.1～9.30	第12期 第2四半期 H17.10.1～12.31	第12期 第3四半期 H18.1.1～3.31	第12期 第4四半期 H18.4.1～6.30
現金および預金の増減額		+18,686	+24,966	▲32,918	+25,014
現金および預金の四半期首残高		17,371	36,057	61,023	28,105
現金および預金の四半期末残高		36,057	61,023	28,105	53,120

(2) 短期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	第12期 第1四半期 H17.7.1～9.30	第12期 第2四半期 H17.10.1～12.31	第12期 第3四半期 H18.1.1～3.31	第12期 第4四半期 H18.4.1～6.30
短期借入金の増減額		—	—	—	—
短期借入金の四半期首残高		—	—	—	—
短期借入金の四半期末残高		—	—	—	—

(3) 長期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示) 1年以内返済予定額を含みます。

科目	期別	第12期 第1四半期 H17.7.1～9.30	第12期 第2四半期 H17.10.1～12.31	第12期 第3四半期 H18.1.1～3.31	第12期 第4四半期 H18.4.1～6.30
長期借入金の増減額		▲60,621	+22,848	▲13,386	▲62,717
長期借入金の四半期首残高		250,629	190,008	212,856	199,470
長期借入金の四半期末残高		190,008	212,856	199,470	136,753

借入金の減少は、三井住友銀行からの借入の繰上げ一括返済(6月、49,998千円)および約定返済によるものです。

V 今後の事業展開と出店計画について

「千葉勝浦店」の出店が決定

8月初めに、13号店となる「千葉勝浦店」の出店契約に調印しました。これは、業務提携先である（株）リサパートナーズとの「東京新木場店」に続く2件目の出店契約となるもので、今後も引き続き、共同で店舗開発を進める計画です。

なお、「千葉勝浦店」の予定地は内房の市原と外房の勝浦を結ぶ国道297号線沿いの高台に位置し、東京都心から車で1時間半以内、「九十九里店」とあわせ、房総半島への観光に便利な好立地です。着工は10月、来春のオープンを予定しています。

その他の出店計画

昨年夏以来、長野県・軽井沢において進めていた出店計画については、近隣からの強い反対があり協議を重ねてきましたがようやく大筋の合意が得られましたので、「千葉勝浦店」と同様、今秋に着工し、来春のオープンを計画しています。

その他、静岡県などで具体的な打ち合わせが進んでおり、東海・近畿方面への出店を積極的に検討しているところです。

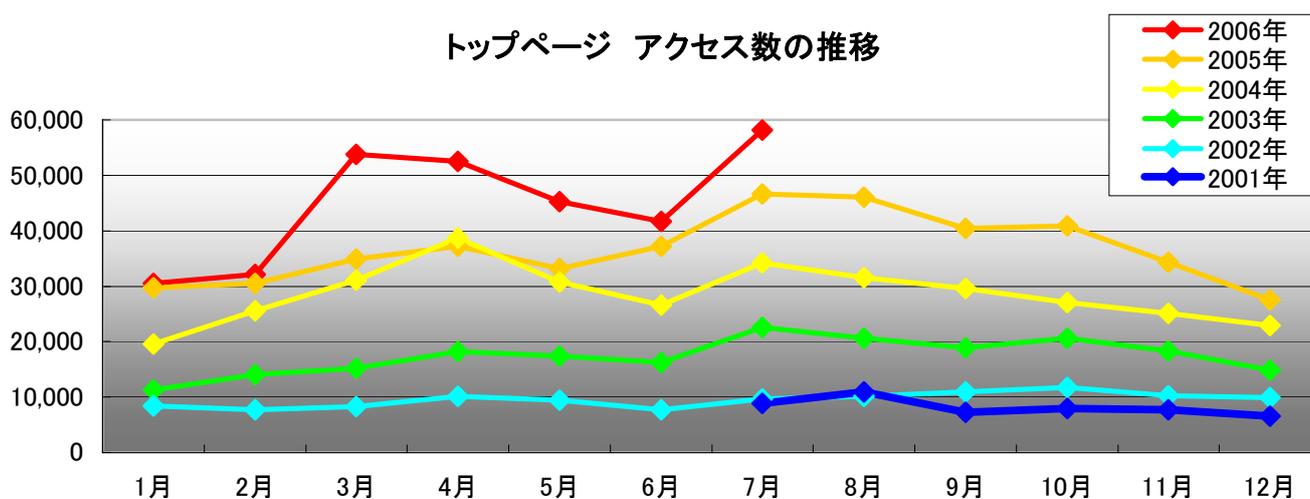
来期は、上記の「千葉勝浦店」「軽井沢店」を含め、夏前までに4～5店舗前後のオープンを実現したいと考えています。

社内態勢の見直し

店舗数の増加と新規出店ペースの上昇に対応し、店舗支配人の異動および本社スタッフを1名増員する予定です。これを機に、業務内容や職務分掌を整理再構成し、あわせて情報の共有化や意思の統一を図る計画です。「旅籠屋」のコンセプトやポリシーはまったく変わりませんが、業容拡大にともない組織的でシステムチックな態勢が求められており、こうした整備を進めることによって安定した事業拡大を可能にする基盤を強化し、数年以内の上位市場への上場を実現したいと考えています。

ホームページへのアクセス

費用節減のため、広告宣伝は最小限にとどめていますが、地図情報サイト「MapFan」への全店登録、メールマガジン広告などによって、ホームページへのアクセス数は順調に増加しています。



以上